

人が好きか動物が好きか ～私が正社員を目指した理由～

山崎 耕造（ワイルドライフマネジメント事業部 関西支社）

はじめまして、あるいはご無沙汰しております。昨年度非常勤社員としてWMOに入社し、今年の4月より正社員となりました、関西支社所属の山崎耕造と申します。私の大まかな経歴については昨年度のフィールドノート（No.162）に掲載されておりますので、今回の原稿では私が昨年度何を考え、どうして正社員を志望したのかを綴ってみたいと思います。

2024年の4月1日、私は神戸市の関西支社に初出勤しました。当時は関西自体片手の指で数えられるほどしか訪れたことがなく、知人もいない状況でした。家探しや引っ越しをばたばたと済ませ、不安と緊張を覚えながら出社すると、メンバーやワークマンのウェアに身を包んだ先輩方が出迎えてくれて、なんだか安心したことを覚えています。

非常勤社員としての最初の大きな仕事は、クマのカメラトラップ調査でした。カメラトラップ調査に関わるのが初めてだったこともあり、勉強しながら大量の資材の買い出し・加工などで慌ただしく日々が過ぎていきました。夏が来て現場作業が始まると、毎日毎日山の中に入って汗だくで作業し、現場から現場へのはしごもざらで、月の半分以上が外泊となる日々が続きました。外勤を好まない人にとっては、過酷だと感じる労働環境なのかもしれません。しかし、私は幸せでした。そして、フィールドワークの長所とも短所とも言えますが、運転中や山歩き中、あるいは宿の部屋で一人過ごしているタイミングで、私がどのように野生動物と関わってきたか、今後どのように関わっていききたいかを考える時間はたっぷりありました。

私が野生動物と初めて関わった時のことを、私は覚えていません。私は野生動物に直接関わるよりも先に、野生動物に関わる人たちに囲まれて育ちました。博物館や動物園、水族館に連れて行ってもらったり、調査の現場に行ったり当時の学生に遊んでもらったことも覚えています。すべてを思い出せるわけではありませんが、とても楽しかったことは記憶しています。しかし、思い返してみると、飼育動物や標本を除いて、野生動物をフィールドで目視したり触れたりした経験はあまり多くありません。これは当然のことです。特に中大型の哺乳類となると、目撃する機会は限られますし、通常触れることなどありません。子供の時分など退屈してもおかしくない状況なのに、それでも楽しいと思えていたのは、きっと周りの人たちのおかげです。山の湧き水でカルピスを作ったり、沢の魚やカエルを観察したり、動物のフンをまるで宝物かのように拾ったり、各地のお酒や食べ物を美味しく飲み食いしたり、疲れているだろうに楽しそうに動物の話をしたり、遠くに点のように見える野生動物に興奮したり、そんな人たちの背中を見て私は育ちました。彼ら彼女らの楽しそうな顔を見ていたから、野生動物に関わることは楽しいのだと私思うようになりました。生まれてから今まで、私は多くの野生動物に関わる人たちに会ってきました。時に悩んだり、病んだり、報われなかったり、疲労困憊したり、それでも野生動物に関わろうとする人たちのことが、私は大好きです。この人たちともっと関わりたい、この人たちの役に立ちたいと思ったことが、私が野生動物業界に入ろうと思った理由、そして

WMOに入社しようと思った理由なのだと思います。

一方で、私は動物が好きなのか分からなくなる時があります。好きな人（たち）が好きなものを自分も好きだと思い込む、言うなれば恋する乙女のような状況に陥っているのではないかと考える時があるのです。彼ら彼女らは、驚くほどの情熱を野生動物に注ぎます。報われないことも多いであろう調査に精を出し、プライベートな時間を削ってまで野生動物と関わろうとする人も少なくありません。比較するものでもないですが、それほどの純粋な気持ちを自分は持っているのだろうかと自問してしまいます。しかし、その問いに答えが出たことはありません。純粋に好きであるとは何かを突き詰めようとすれば、それこそ古今東西人類が思い悩んで答えの出ていない問いなのかもしれません。それはさておき、最近の私はこのことにあまり悩まなくなりました。それというのも、動物のことが好きであろうが嫌いであろうが、あるいは好きな部分であろうが嫌いな部分であろうが、私は野生動物と関わることをやめないと決めたからです。関わり方は変化するかもしれませんが、何らかの形で意地でも野生動物に関わり続ける、そう覚悟を決めてからは、以前のように悩むことは少なくなりました。

そんなことを考えながら夏のカメラトラップが終わると、秋の糞塊調査、冬のサル調査、報告書作成シーズンと季節は変わっていきました。その途中で、次年度以降に自分がどんな立ち位置を希望するか決める必要が出てきました。非常勤社員として次年度も働くか、正社員への登用試験を受けるか、あるいはWMO外に出るか。思い悩むことは嫌いではありませんが、何らかの答えを出すのは簡単ではありません。最終的に正社員への登用試験を受験し、4月から正社員となったわけですが、その決め手となったのはWMOで出会った人々でした。

前述したように、私は野生動物に関わる人たちが好きです。興味のあることに一生懸命で、少し「変」な人たちと関わるのが大好きです。WMOで出会ったのは、やや変わっていながらも誠実に人や動物と向き合う人たちでした。仕事や、時にはプライベートも含めて付き合う中で、様々な面で尊敬できる人たちだと感じました。この人たちの背中に学び、横に立って役に立てようになりたいと思いました。そのためには、非常勤社員でいるよりも正社員になった方が具合が良さそうだと考えたことが、登用試験を受けることにした大きな理由の一つです。現状まだまだ力不足を痛感する日々ではありますが、一緒に働く人たち、さらには野生動物に関わる人たちが幸せになる一助になればと思っています。

念のために申し添えておきますが、私は動物が好きかわからないとは書いたものの、野生動物の調査をしたり文献を調べたりしている時に確実に胸の高鳴りを感じています。マネジメントだけでなく、野生動物に関する新しい発見をし、それを広め、自分も楽しみながら、野生動物に関わることに喜びを覚える人を増やしていくという野望は捨てていません。それがどのような形になるかは分かりませんが、フィールドワークを続けていれば考える時間はたっぷりあります。これから先、私がどうなっていくのか、見守っていただけますと幸いです。

みなさま、どうぞこれからもよろしくお願いいたします。